

名義大意

下

特35-711
1200800187564

特35

711

747

館籍書會育教本日大			
一	七	一	七
二	一	三	七
册	號	架	函

東
勢
四
十
一



始



特 35
711

東京圖書印

東京圖書印

東京圖書印

名義大意下卷

色川御蔭 著

儲今度徳川家ノ闕國アリシニヨリテ麾下ノ兵士浮浪ニ成シモノ多ク憐ムヘキコトナリ古代ノ兵士ニハ箇様ノ事ハ決シテナキナリ其故ハ古ノ兵士ハ前ニモ述ル如ク皆農民ナレハ領主其國ヲ放ルトモ兵士ハ土地ニ付テ跡ニ殘ル故ナリ武士ト

名義大意

卷下

云フハ大名ニテモ多クハ農民ニシテ領家
ト云ハ公卿、官、官人、社寺等ナレハ從者數多
アルコトナシ大名ハ國々ノ守護地頭ニテ就
中守護職ナト云カ從者モ多ク持場モ廣カ
リシカ兜角ニ勢アリシ人ニハ其地頭カ多
ク付從ヒシナリ領家ハ庄園トテ上分米
ノ租ヲ取ルハカリニテ人民ノ事ニハ抱ハ
ラサリシコト此度御一新ニヨリテ暫クノ間
所ヲ分クテ鎮撫ト云コトヲ執計ヒ玉フ方ア

リシ是鎌倉ノ追捕使ニテ守護地頭ノ職ナ
レハ收納ニハ抱ハラヌ役ナリシナリ庄園
ノ地ヲモ王室ノウチニハ國司ニテ取扱ヒ
シカ鎌倉ノ時ヨリシテハ守護地頭ニテ取
扱ヒシナリ武士ハ元農民ナレハ私ニ黨ヲ
モ組ミテ武名ノ高カリシ人ニハ國々郷々
黨ヲ成シテ附キ隨ヒケルニテ領地ノ多キ
故ニハアラス其將ノ武威ニ依ルコトニテ其
將討タルトモ武士ノ録ヲ失ヒテ路頭ニ

迷フ事ハ決シテ無カリシナリ其武威ノアリシ人
ハ今ノ世ノ俠客ノ如クニテ大将ニ成ルト
其下ノ武士ニ成ルトハ俗ニ親分オコシ子分コシト云
フコノ如シ總追捕使以來武家ニテモ亦官
家メカシキ事モ始リシナリ國土ノ事ハ皆
カラ本ヨリ天子ノ御物ニテ只位田職田封
戸ナトテ其租庸調ノ上カリ物ヲ賜リシ
ニテ國政ノ筋ハ總テ國司ノ計ラヒナリケ
ルヲ賴朝ノ時ニ非道ノ事ヲ總追捕使ニ任

セラレ諸國ニ守護地頭ト云テ置テ人民ヲ
制スル權ヲモ任セラレケルニ朝廷ハ租
領家ニ無上分米ヲモ押領シ其土地人民ヲ
モ私有シタルカ足利ノ世ハ大小名ナリ此
事ハ北條ノ時ニ兆シテ足利ニテ全ク武家
ノモノトナリシナリ此處ハ返々モヨク會
得トクズ事ガカシサレテ後鳥羽帝モ甚ク
逆鱗ギャクリンマシマシテ承久ノ亂ヲモ醸セシカ敗
王ミカドヒケレハ敵憲ヲモ遂サセ給ハス後醍

嗣帝モ同ク北條ノ惡シキヲ惡マセ給ヒ後
鳥羽帝ノ御志ヲ繼ガセ思召レ立セ玉ヒケ
レモ足利ノ計ヲヒニヨリ南北兩朝ニ別レテ
天皇ノ思召モ遂サセ玉ハス足利ノ世ハ大
カタ亂リカハシクテノ過シニ應仁ノ山
名、細川ノ亂ヨリ又甚シク世ノ中擾亂レテ
帝王モ無キカ如ク國々思ヒ思ヒニ治メツ
テ名分ト云下モナク皆々武家ノ私軍ノミ
ニテアテテ織田氏幕下ヲ扶ケテ名ノ

アル軍ヲ起シ續テ豊臣家世ヲ平定シ海外
マテモ武威ヲ輝シ朝廷ヲ尊崇シ玉ヒケレ
氏復古ノ事マテニハ及ハレス徳川公ニ至
リテ真ノ太平トナリ四民安堵ノ堺ニ至リ
ケレ氏猶朝廷ノ御事ハ從來ノ儘ニシテ何
一ツ別ニ廢絶シタルヲ興立シ玉フテモ無
クテ世ノ中溢リ来リシハ大カタ昔ノ足利
ノ時ノ儘ナリ扱足利ノ惡シト云フハ後醍
醐天皇ニ從ヒ奉ラズ從ヒ奉レハ復古ノ思

名ナルニヨリ武家ノ私欲モ叶ハヌトニテ
アリケレハ別ニ朝廷ヲ私ニ立奉リテ南朝
ノ御心ニハ背キテ北條ノ世ヨリ武士ノ私
欲ヲ成セシマ其儘ニ成シユカントナリサ
レハ又諸國ノ武士モ足利ニ左袒スレハ所
領ノ私欲モ思フマヽナレド官方ニ味方ス
レハ朝廷領家ヘ租ヲ出サ子ハナラズ我得
レ所ハ地頭給ハニナリテ得分ヲ減スル
事ナレハ命ニカケテノ骨折モ面白カラヌ

思フ故ニ兎角朝敵ニナリハ軍勢モ多ク附
キ官軍ニ成ルキハ軍勢モ多ク付カサル譯
ニテ名義ノ明カナラサリシ故ナリ其止ニ
軍功ノ恩賞將帥ノ意ニ任セサリシハ官軍
ニ德化ノ薄キ處御座シテ恐レナカラ思名
ノ遂ニ其玉ハサリケルニテモアラン名義
ハ紛レ無キトニテモ欲ト云フ物コソスハ
ナキ物ニハアリケレ欲ノ為ニハ命モ惜カ
ラズ義モ忠モ忘レテ横レマニ成リ行クメ

リ且前ニモ云ニ如ク名義ノ論モ今ノ世ノ
 ヤウニタレカニ明ラカナルコトノナカリ
 シ世ヲ治ルノ道ハ兎ニ角言路ヲ開クニ非
 レハ美事ハ行ハレ難キヲ多シ徳川家世ヲ
 治ル政事ヲ執リ玉ヒレ頃ハ明君賢吏ノ上
 ニ出タルカ多カリケル故言路ヲ開ク道下
 テ別ニ建タル事モ無キナリ蓋シ上ノ明ラ
 カナ厚時ニハ下ノ詞モ容ル、コトアレバ其
 人既ニ退ケハ言路塞ル是道ヲ設ケサル故

ナリサレハコソ皇國學ノ道開ケタル後モ
 政道上ニ皇學國ノ意ニ背ケルコト多カリシ
 ハ言路不開禁忌ヲ憚ルテ言上ナキ故上
 ニテハ知リ玉ハ又事ニテ漢學ハ幼若ハ人
 主ト雖氏是非一通ハ學ヲ事ナレ氏皇朝ノ
 學問ハ學フヘキモノトモ思ハス夫ハ亦濟
 ハ様ニテアリシナリ其源ハ儒者ナリ何ト
 ナレハ漢學ヲ大ニ學フ儒者ト云フモノ皇
 國ノ書ハ讀ムスハ亦亦濟ハ亦亦思及ルカ

常ナレハナリ頼山陽カ日本外史ヲ見テ始
テ驚キタモ笑フヘキナラスヤ凡テ假
名書ノ書籍ハ俗ナリト見キモハト
モ思ハサルハ漢意ノ甚シキ僻ニ天日本魂
ニナキ故ナキ假字ニテ書キタルカ意味淺
クシテ漢字ニテ書キタルカ意味深カルハ
キ理ハ決テナキ横文字モ亦一種ノ假名文
字ナリナレバ天文窮理ハ深理明説ナトキ
出セシハ漢籍ノ進モ及ス所ニアラス日本

ノ學問ハ漢文假字書ニ係ハラス日本ノ書
ヲ博ク讀ムニハカス日本ノ道ト云フモ
自ラ其中ニ在ルトニテ近代ニ至リテハ其
道々レキ書モ數多ク出来リシカレ然レ
テ言路開ケザリシ故ニ皇朝ノ學漢學ノ上
ニ置キ玉ハサリシナリ是朝廷ヲ我知ラス
御尊崇ノ道モ足ラサリシ起本トハナリテ
自ラ大義ヲ弁不知ラサルニ似タキ理ニ落
チ入レナリ武士モ百姓モ令ノ世ニテガ習

常ツト成リテ元ヨリカヤウ成モラトノミ思
ヒ居テ武士モ亦知ラヌ世ナレハ其來歴ヲ
クハシク云ヘ上代ハ大ニカニシテ大伴オホトモ
大來目部オホキメナト云称ハ武官ノ事ナレ上カミツ
世ノ事ナレハ暫クオキテ中世ニハ衛門兵
衛、衛士、舍人ナレト云テ天下ノ農民ヨリ京
ノ守衛ニ年々分番シテ名サレ天下正丁ノ
三分ノ一ハ國々軍團ニ入りテ兵士ナリテ
ルニ依テ皆其役ヲ勤ムル者ナレハ武官ナ

ル故ニ武士ナルナリ天下ノ良民ハ皆モル
ルナク賤民モ良民ニ從テ奴隸ノ武士ナ
リ是常ニ称呼ノ移リテ俗稱ニ何右衛門、何
兵衛ナト云フガ今ニ多キソカニ檢非違使
ト云フ職ヲ置レヨリ取テ檢非違使ニ
屬スルモノ武威ヲ振ヒテナリ是ヨリ彈正
臺ノ威ハオチレトカヤ賴朝總追捕使ヨリ
檢非違使ノ威モ亦廢レ諸國皆彼追捕使ノ
守護地頭ノ取締リ鎮撫ス成ストニ至リ

ナリ天朝ノ御領國司ノ支配スル土地ハ租
ヲ朝廷ヘ奉ル庄園トテ領家ヲ持タル土地
ハ租ヲ上ノ米トテ納メテナリ國衙ニハ守
護ヲ置庄園ニハ地頭ヲ置トハ此事ナリ公
領ニモ私領ニモ鎌倉ヨリ追捕使ノ守護地
頭ヲ命シテ取締ラテシ官家モ領主モ其地
ノ收納ヲ得ル迄ノコトニセシナリ本朝ノ租
ハ限リスルコトナルニ此時ヨリ天下田一段
ニ付租ノ外ニ鎌倉ヘ兵糧米五升地頭給米

一斗代錢百文ヲ出スコトナリ二位ノ尼ノ
時加徴米トテ兵糧米ノ増ラ米五升ツ、取
上ケコナリサレハ收納モ武家ノ方カ多ク
シテ天下大方鎌倉ノ領地ニ成リシモノ、
如クナリシニ上ノ米ヲモ亦地頭カ押領シ
テ領家ヘ出サシリシカ多カリシナリ鎌倉
ニ幕府ヲ開カレシ以來ハ天朝領家ハアリ
ケレバ唯租米ヲ聊カ取り玉フマテニテ國
々人民農武一致鎌倉ノモノトナリシ故ニ

名義ノ二
九

民事勢權其他何事モ武家ニ移リテ王家珠
 ニ衰^ナハサセ玉フ^トニハ至^レルナリナケカハ
 シキ^トナラヌヤ扱^テ足利カ無道ナルニ組
 スル武士ノ多カリレハ前ニモ述ル如ク朝
 廷ノ思召ニ從ヒハ押領ノ地ハ成ラス上分
 米粗米ヲモ正^レク納メ武家ノ我^儘ニナラ
 サルカ故ナリ鎌倉以前ノ如ニテハ自由ノ
 働^キモ出来ス大國ノ望^ミモ叶ヒ難クレハ
 皆々足利カ無道ニ隨ヒ武功ニヨリ其恩賞

ニ大國ヲモ玉ハリナトシテ足利ノ代ニハ
 國ヲモ持ホトノ大名ハ出^イ来^キリレナリ其移
 リ替ル處令ノ世ノ大名武士ノ様ナリ斯ク
 武士ノ多ク足利ニ附キ隨ヒレモ武士ハ皆
 王著ニテ己^カカ勝^カ手^テ宜^レク名分ノ明ラカ
 ナラサリレ世ナレハナリ令其名分モ明ラ
 カナル世ニ至^リレハ全ク三百年来治世ノ
 餘澤ナリ亂世ノ儘ナランニ争^イカ名分ヲ知
 ル者ノ出来ハケニヤ

備又天下ヲ治ルニハ制度ト云フヲ建テ
世ノ中ヲ統一スルヲナルニ天孫降臨ヨリ
後ハ何事モ大ラカニテ自天封建ト云フ事
、如クナレバ漢學ノウツテヒニテ前後兩
漢ノ頃ノ手振リニ習ヒ取りヒタフリニ漢
アリニ移ニ至ヒケ州故ニ文武天皇ノ世ニ
至リタレセナル郡縣ノ制ニナレ玉ヒケレ
氏次第ニ其法律モタツヒテ白川鳥羽帝ノ
頃ノ如クニ移リ變リケルニ平家ノ奢侈ニ

依リ天下ノ亂ヲ釀シ其變化鎌倉ノ幕府ニ
及ヒシナリ朝廷ヨリ許シ玉フ事ナレハ武
家ニ私ナク守護地頭等初ノ定メノ如ク正
路ニヨク勤タラシニハイカテ逆鱗マシク
玉フコアラシヤ初メ頼朝カ時ニ定メ置タ
ルニ違ヒハコリ天兵ヲモ下シ給フニハ有
ケレ諸國ノ守護地頭ト云フモノ名分ヲモ
辨ヘス唯己カ私ノナルヲ甘シテ無道ニ
モ組シ足利ノ世モ立ケルナレハ今ノ世ノ

大名トテモ皆其ノ流ニテ承久以来元弘建
 武ノ天子ノ思名ニ不應ハモトヨリ明ラカ
 ナルナリ其初ノ頼朝カ總追捕使ト云
 モ義經ヲ尋子出ル迄ノ願ニテ補セシナリ
 然ルニ義經討タレテ彼ノ是レノトテ守
 護地頭ハ止メス兵糧米難澁ノ事ナト訴
 ルモノアリテ京都ヨリ仰セ下サレテモ兎
 角ニ是モ其儘ニナレテ天皇ノ思名ニハ決
 テナカリシナリ世ノ中ヲ静メルスリニテ

終ニ天ノ下ヲ押テ支配サレケルナラシ
 朝モ北條モ恐ロシキエミノアリケル人ニ
 テコソアリケレ其後々ヲ受ケシ物ナレハ
 何レニモ大義モ名分モ大道ニ欠ル處アレ
 ハ其後ハ少シク仁義徳行ノ人ハ出タリシ
 世モアリケレ其論スルニ足ラヌ事ナリ薩
 長土藝ノ藩々モ猶其事ハマヌカレヌナリ
 徳川家稀代ノ太平ナル世ニテモ朝廷ヲ尊
 崇シ給フ道ハ足ラヌ朝廷ヲ縮メ置キ給フ

ヤウナリシハ固ト姑息ヨリ出ルト雖凡其
實ハ漢學ヲノミ尊ミ来リ國學ハ為サテモ
濟ムトノ様ニアリシ弊ニシテカヘス
モ幕府ノ罪徳川家ノ越度ナリ然レトモ令
度徳川慶喜公恭順ヲ盡シ官軍ニ抗シ給ハ
サルハ石流ハ水戸贈大納言家ノ御子ニテ
感スルニ餘リアルトナリ家ヲ捨身ヲ抛テ
朝廷ニ背キ給ハサルハ名分ヲ能ク知り玉
フト云ヘシ誠ノ忠臣真ノ賢人ナリ麾下ノ

士ノ勇ナラサルヲ知リ譜代ノ大名ノ懸命
ナラサルヲ知リテ見限リ世ヲ捨玉ハレト
思フモ憶病ナル人ニテ器量ノ足ラヌ故
ト思フモ共ニ皆當ラスイカホド怯ナル人
ナリ凡自ラ力戦ナレ玉ハストモ事濟ムハ
キ人ナレハ名義ヲタニ厭ヌナラハ早ク防
戦ノ手段モ有ヘキニ多クノ麾下ノ士ニ何
程勇氣才略ノモノアリトモ大義ヲ存シテ
用ヒ給ハサリシナリ其ハ度々令ヲ下シ恭

順ヲ失ハサルヤウ下庶人ニ至ルマテモ觸
示シサトサレ給ヒケルニテモヨク知ラレ
タリ前ニモ云如ク第一ニ義公ノ世ニ大日
本史ヲ撰ハレ名義ヲ糾シタル學風ノ子孫
ニ及ホサレ贈大納言家ニモ厚ク尊從イタサ
レシハ近代國學ノ開ケタル故ナリ然ルニ
京都ヲ縮テ足利擾亂ノ世ノ儘ニサレテ替
ルトナク上代ノトヲハ知シ食サレサルモ
ナ、如クシテアリシハ皇朝學ヲ建テ給ハ

スレテ只管漢學ヲノミ重ニシ給ヒリレ故
精リ漢學ハ陽武ノ放伐ヲ尊ミテ惡人トハ
為サル學風ナリソハ開闢ノ初コリ定レル
君無シテ殷ノ代ノ末ニ政紊レシカハ湯武
聖如キ偽君子アリテ愚民ノ心ヲ取リ遂ニ
天下ヲ奪ケレ其時世ニ生レテハ如何ナル
聖人君子ナリ其君ヲ諺リ其祖宗ヲ嘲テハ
論セサルカ故ニ其德行ヲ称シテ聖人トシ
モアカメ呼ヒナスイキトナリ是カ世々ノ

惡幣ニナリテ其次ノ世ニモ亦惡シキ天子
 人時ニハ偽君子出テ國家ヲ奪ヒタルヲモ
 亦聖人ト称シ唱ル下ニハナリシナリ是學
 風ノ惡レキ所ナリサレハ武王周公モ何ノ
 聖人ナル下ノアルヘキ天子ヲ弑セシ逆罪
 人ナル下論ヲ待タスト雖此論ノ儒籍ニ
 見エヌハ皆ソノ賊聖人ノ世ニ出ル世々ノ
 識者ニテカハルモハト思ヒ定メタルヨリ
 心モ付ヌナリ我皇國ノ眼ヲ以テ見ル片ハ

湯武モ皆タレカナル逆賊ナリ真淵宣長等
 カ云ヘル如ク漢土ハ惡シキ國風ニテ世々
 ニ反逆人ノ出テ其君ヲ弑シ已レ天子ニナル
 トハ是ナリサレハ漢學ヲハ餘リニハ尊ム
 ヘカラス皇朝學ノ次ニ置クヘキ下勿論ナ
 リ今ノ世ニ至リテハ漢學モ皆カラ惡シキ
 ニハアラス漢學モ為子ハ皇朝ノ古書ヲ讀
 ミテ古制等ヲ解スルニモ便リ惡シク且ハ
 人々身ノ行ヒ家ノ治メ方國政ノ筋ナト真

理ニ亘リテ必ス益アルト多ケレハナリ唯
 漢意ニ成ルカ惡レキナリ漢風ニ執著セス
 心タニ清ク漢意ヲ放レテ有ラシニハイク
 ラノ漢籍ヲヨミ横文ノ書ヲヨムモ妨ハ有
 マレク日本魂ハ動クマシキモノナリ西洋
 學トテモ右ノ意ナラサレハ國體ヲ損スル
 コナリ彼ヲ學モ今日ノ急務ニシテ育材ノ
 業トレ氏必ス執著スヘカラス如此開ケ渡
 リタル世ニ徳川家ニテハ古ノ事ハ知ラヌ

ゲニテサシ置レハ皇朝ノ學ハナサテモ
 濟ムヘキヤウニテアリシ漢學ノ罪ナリ然
 レ氏近來追々皇國學ノ開ケタレハ又世上
 ニテモ上下共ニ左ハアルマシキ筈ト世ノ
 誅ハアリテモ言路ノ塞リシ時ナレハ知リ
 テモ建言スル人ハナク詰リシ處カ世ノ中
 變化ノ根元ト成リシモノトノ思ハル、故
 ニ國學ヲ置テ先人々日本魂ヲ堅クスヘシ
 日本魂タニ堅カラシニハ幾多ノ漢書ヲ讀

西洋ヲ學ヒタラシムモ邪道ニハ決シテ落
マレキヲナレハナリ古代ヨリ式法ノ立タ
ルヲモ今日迄諸事世人ノ取扱フヲモ漢學
ノヲノミ多キユエ知ラサレハ拙キニ落テ
道理ノ分明ナラヌヲモ多カルヘシ儲前ニ
論スル如クナレハ今ノ世ノ武家ノ來歴ハ
薩長トテモ同シトニテ徳川家ヲ誅ルヘキ
處ハアラス庶幾ハ今ヲ上代ニ考合セテ諸
侯ノ領地ハ申ニ及ハス高一石ニ付粟ニテ

一斗五升米ニテモ七升五合位ツ、土民ニ
係ラス公納シテ之ヲ天子ノ御用途ニ成
玉フヤウニシ天子御領ノ分ハ公ノ租米ヲ
除ケル外定例ノ年貢丈ハ政府ノ國用ニ備
ヘキトナリ是今ノ世態ニ依リテ云ナリ是
迄京都ノ御方リサマハアマリニ御イタハ
シキ程ニテアリレ故ニ人氣ヲ失ヒタルモ
多カリレナリ今御一新ノ時ニ當リ何事モ
改マリ行キテ惡シキ弊モ皆々宜シキニ變

行^レ暗^ク夜ノ明行^ラシヤウナラシニハ
何卒^ト朝廷ノ御事ハ萬々申ニ及ハス下々
ノ事ヲモイタハラセ玉ヒ上古ヲ御尋子遊
ハサレテ下民ニ課役ノ多カラヌヤウ御處
置アリタキコナリ
前件ハ昨辰年中筆記^シケルカ今春ニ至リ
薩長肥土ノ諸侯上表^シテ土地人民悉ク返
上^シ與奪ヲ朝廷ニ任セ再ヒ封土ヲ改メ
思召^ニテ下^シ給ハル^ルト^シ下^ノ議ヲ建白ニ

及ヘリ故ニ諸侯タルモノ我モノト土地
人民奉還ト云^フ始リ皆々上書ヲ捧^ケタリ
是ニテ大義モ正^シク名分モ明^カニ皇國ノ
御制度モ立ヘキ御事ナリ従前幕府ノ制ニ
テハ霸者ノ勢ニテ朝廷ノ御制度ハ立カ
タレ然ルニ土地人民奉還ノ舉アリシハ皇
國ノ學ヒノ道弘^リリニ餘光ニテ全ク真淵^ノ宣
長等ノ大功ト云ヘキナリ續テ篤胤^等出テ
神書ヲ校明セシ餘澤日本一州ニ弘マリ萬

國ニスグレテ我天子ノ尊キユエヨシラ
モ皆人弁ヘ知リシ故ナリ悲ヒカテ新田、楠
ノ頃ニハ皇國學トテ別ニモナク自ラ學問
ノ道モ今ノ世ノ如クハアラサリシ故ニ我
私欲ニヒカレテ名義ト云フヲモ弁ヘサリ
シナリサレハ新田楠イカホド忠義ニテモ
其人氣ニ叶ハサレハ功業モ建ス足利カ不
義ナルモ助ル人ノ多ク不義トモ知ラサリ
シナリ此故ニ名義正シクシテ國ノ静カナ

ラシトヲ思ハ、國學校ヲ建テ神道ヲ尊奉
シ萬民ヲモ導キ且上代御世ニ下民ヲ惠
ミ玉ヒシ御仁政ノ跡ヲモ顧ミヨク心得ヘ
キヲ我國ノ人タルノ道ナリ

名義大意下卷終

京大書下卷
 六卷九
 七卷
 八卷
 九卷
 十卷
 十一卷
 十二卷
 十三卷
 十四卷
 十五卷
 十六卷
 十七卷
 十八卷
 十九卷
 二十卷
 二十一卷
 二十二卷
 二十三卷
 二十四卷
 二十五卷
 二十六卷
 二十七卷
 二十八卷
 二十九卷
 三十卷
 三十一卷
 三十二卷
 三十三卷
 三十四卷
 三十五卷
 三十六卷
 三十七卷
 三十八卷
 三十九卷
 四十卷
 四十一卷
 四十二卷
 四十三卷
 四十四卷
 四十五卷
 四十六卷
 四十七卷
 四十八卷
 四十九卷
 五十卷
 五十一卷
 五十二卷
 五十三卷
 五十四卷
 五十五卷
 五十六卷
 五十七卷
 五十八卷
 五十九卷
 六十卷
 六十一卷
 六十二卷
 六十三卷
 六十四卷
 六十五卷
 六十六卷
 六十七卷
 六十八卷
 六十九卷
 七十卷
 七十一卷
 七十二卷
 七十三卷
 七十四卷
 七十五卷
 七十六卷
 七十七卷
 七十八卷
 七十九卷
 八十卷
 八十一卷
 八十二卷
 八十三卷
 八十四卷
 八十五卷
 八十六卷
 八十七卷
 八十八卷
 八十九卷
 九十卷
 九十一卷
 九十二卷
 九十三卷
 九十四卷
 九十五卷
 九十六卷
 九十七卷
 九十八卷
 九十九卷
 一百卷

紀元二千五百三十三年九月新刻

色川御蔭著

三都

發兌

書林

京都寺町通松原下	勝村治右衛門
大匠心齋橋北久太郎町	柳原喜兵衛
東京日本橋通二丁目	北畠茂兵衛
同芝神明前	牧野吉兵衛
同横山町三丁目	太田金右衛門
同日本橋通二丁目	小林新兵衛
同所	稻田佐兵衛

終